

三猿文庫 15巻

# 平市公報

第卅二號

昭和十五年十一月十五日

## ○告示

告示第三三號ノ一

昭和十五年九月十五日現在ヲ以テ調製シタル衆議院議員選舉人名簿ヲ十一月五日ヨリ十五日間毎日午前九時ヨリ午後四時迄平市役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供ス

昭和十五年十一月一日

平市長 青 沼 鋒 太 郎

告示第三三號ノ二

昭和十五年九月十五日現在ヲ以テ調製シタル市會議員選舉人名簿ヲ十一月五日ヨリ十五日間毎日午前九時ヨリ午後四時迄平市役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供ス

昭和十五年十一月一日

平市長 青 沼 鋒 太 郎

告示第三四號

昭和十五年度分市稅中平市稅賦課徵收條例第七十五條ニ依リ徵收期限ヲ

左ノ通定△

昭和十五年十一月七日

平市長 青 沼 鋒 太 郎

記

一、電柱稅附加稅	全期	十一月十日ヨリ	同月二十五日限
一、船 稅	同	十一月十日ヨリ	同月二十五日限
一、自轉車稅	同	十一月十日ヨリ	同月二十五日限
一、荷車稅	同	十一月十日ヨリ	同月二十五日限
一、金庫稅	同	十一月十日ヨリ	同月二十五日限
一、犬 稅	同	十一月十日ヨリ	同月二十五日限

## ○辭令

十月二十二日  
 雇ヲ命ス  
 月俸參拾圓給與  
 工務課土木係ヲ命ス

松崎公紀

十月三十日

依願解職

雇ヲ命ス

月俸四拾五圓給與

財務課財務係ヲ命ス

十月三十一日

書記補ヲ命ス

月俸四拾圓給與

兵事課兵事係ヲ命ス

雇ヲ命ス

月俸參拾八圓給與

財務課國縣稅係ヲ命ス

十一月十三日

依願解職

永山 實

岩瀬 武雄

笠原 三男

岡田 武平

書記補 馬場 武太郎

# ◎彙報

## 一、紀元二千六百年奉祝式舉行

十一月十日、十一日の兩日紀元二千六百年式典及奉祝會を舉行せらるゝに當り此の聖代に生を享けたる國民の歡喜と感激とを以て聖壽の無窮を祈念し奉ると共に興亞の聖業翼賛に邁進するの決意を鞏固ならしめ國民奉祝の熱意を表明し戰時下國民の士氣を昂揚せしむる爲左記に依り平市奉祝式及

奉祝行事を舉行せり

臨時祭典

十一月十日午前九時 市内各神社々前ニ於テ

平市奉祝式

十一月十日午前十時五十分 平市公會堂ニ於テ

式次第

一、開式 二、宮城遙拜 三、國歌齊唱 四、紀元二千六百

年頌唱合唱 五、詔書捧讀 六、式辭 七、萬歳三唱

八、閉式

右奉祝式には官民多數出席、國歌齊唱、紀元二千六百年頌歌を合唱(平第一小學校ブラスバンド助奏)し詔書捧讀及式辭を終り次いで式場に用意せるラヂオに依り近衛首相の式辭中繼放送を聴取し、恰も宮城外苑の式場の奉祝式典に列するかの嚴肅なる氣分式場に滿ち曠古の盛典奉祝に相應しき狀景を呈し午前十一時廿五分近衛内閣總理大臣の發聲に和して萬歳を奉唱し式を終る

## 式辭

皇國未曾有ノ重大時局ニ際シ茲ニ光輝アル紀元二千六百年ノ佳辰ヲ迎ヘ國ヲ學テ嚴肅盛大ナル奉祝ノ式典ヲ行ヒ、遠ク建國ノ鴻業ヲ瞻仰シ奉リ聖壽ノ無窮ト、皇運ノ彌榮ヲ慶祝シ奉ルコトハ、洵ニ我等國民無上ノ光榮デアリマシテ、無限ノ感激ト一大感激トヲ禁ジ得ザルモノデアリフス申ス迄モナク今次支那事變ハ大御稜威ノ下、皇軍ノ赫々タル武威ニヨリ眞ニ空前ノ戰果ヲ收メテ來テ居ルノデアリマスルガ、更ニ進ンデ大東亞新秩序建設ヲ完遂致シマスルニハ長期ニ亘ル、國家總力ニ發揮テ必要トスルノデアリマシテ此ノ聖業ノ達成コソ建國ノ理想ヲ顯現シ、一億國民ノ決死的努力ヲ要スルノデアリマス、コレ實ニ現代日本國民ニ課セラレタル歴史的

任務デアツテ我等齊シクコノ重大性ニ醒メ益堅忍持久ノ志操ヲ堅持シ如何ナル艱難ヲモ突破スルノ一大勇猛心ヲ振起シナケレバナリマセヌ  
此ノ秋ニ當リ、皇紀二千六百年ノ盛儀ニ會シ、紀元節ニハ、畏クモ優渥ナル勅語ヲ賜リ、後又日獨伊三國同盟ノ成立ニ際シテハ、大詔ヲ渙發アラセラレ、帝國ノ嚮フ所ヲ明ニシ、國民ノ進ムベキ道ヲ昭示シ給ヒマシタコトハ聖慮宏遠洵ニ恐懼感敬ニ堪エマセン、茲ニ謹ミテ皇威ノ宣揚ヲ神明ニ祈願シ義勇士ノ英魂ニ感謝懽懽ヲ捧ゲ、遙ニ皇軍將士ノ勞苦ヲ感謝スルト共ニ舉國一致、益愛國ノ赤誠ニ燃エテ與亞大業ノ達成ニ邁進シ、大政翼贊ノ實ヲ舉ゲ、以テ聖旨奉答ノ忱ヲ致シタイト存ジマス  
聊カ所懐ヲ述ベテ式辭ト致シマス

昭和十五年十一月十日

平市長 青 沼 鋒 太 郎

旗 行 列

十一月十日午前十時市内各學校生徒兒童一萬餘人數班に分れ市内を行進し街に溢るゝ慶祝の気分は一段の高調を見せたり

提 灯 行 列

十一月十日午後六時各區より隊伍を組み合せて集合市役所前より西班に分れ小學校青年團等のプラスチックバンドを先頭に市内を行進街は全く灯の海と化し萬歳の聲天地に漲り誠に市民慶祝の熱意は其の頂點に達したるを思はしめ各班午後八時行進を終り市役所前にて解散提灯行列に参加せる者從來に其の例を見ざるの盛況なり

○ 庶 務

十月中文書收受發送數

種別	收 受	發 送	計
庶務	二、七二三	二、六二二	二、九八五
財務	五、一五二	二、七三三	五、四二五
産業衛生	二九六	一一一	四一七
兵 隊	一四三	三七九	五二二
戸籍	三四二	三一〇	六五二
工 務	六五	三二	九七
社 會	五六	四〇五	四六一
學 務	一六八	四二一	五八九
合 計	八、九四五	二、二〇三	一一、一四八

十月中諸證明件數

種別	件 數	料 金
身 分	五三	一〇、六〇
印 鑑	一八五	三七、〇〇
其 他	九	一、八〇
計	二四七	四九、四〇

十月中公會堂使用狀況

種別	回 數	日 數	使用料
有 料	一七	一七	一〇七圓〇〇
無 料	四	四	
市役所使用	二八	二八	

### 公益質屋事業成績(十月分)

職業	貸附狀況		質物種類		貸附狀況		辨濟狀況	
	貸附狀況	辨濟狀況	質物種類	點口數	貸附狀況	辨濟狀況	點口數	辨濟狀況
職業者	三	三	債券	二六	二六	二六	二六	
勞働者	三	三	家具	二七	二七	二七	二七	
俸給生活者	五	三	衣類	二〇	二〇	二〇	二〇	
小工業者	五	三	裝身具	二一	二一	二一	二一	
小商人	一五	二〇	其他	二二	二二	二二	二二	
農業者	四	三	計	二九	二九	二九	二九	
漁業者	一	一	其他	三〇	三〇	三〇	三〇	
其ノ他	五	一	計	三〇	三〇	三〇	三〇	
計	三三	二五	金額	四六九、〇〇〇	四六九、〇〇〇	四六九、〇〇〇	四六九、〇〇〇	
四月以降	一、八六七	一、二八四	四月以降	二六、九二六	二六、九二六	二六、九二六	二六、九二六	
累計	一、八六七	一、二八四	累計	二六、九二六	二六、九二六	二六、九二六	二六、九二六	

### ○學務

#### 一、蚊帳ノ釣環献納運動實施

國際情勢の變轉に伴ひ物資問題は益々重要性を加へつゝある折柄金屬類を政府に集中し將來の萬全を期する爲財団法人戰時物資活用協會主唱の下に

各婦人團體協力標記献納運動を實施し十一月一日之が集蒐を行ひ直ちに献納品を右協會に送附す、蒐集數量左の如し

- 一、釣輪 三五、〇九九個 百七貫五百匁
- 一、眞鍮雜品 三九三個 二貫匁
- 計 三五、四九二個 百七貫五百匁

#### 一、ラヂオ體操大會

十一月三日明治節の佳辰を下し紀元二千六百年奉祝第十一回明治神宮國民體育大會平市體操大會を左記により實施せり

十一月三日午前十時半より平商業學校校庭に於て  
參加團體、市内各學校、各種團體、官公吏、其他市民一般

#### 大會順序

- 一、開會ノ辭 二、明治神宮遙拜 三、宮城遙拜 四、默禱
- 五、國歌齊唱 六、紀元二千六百年頌歌合唱 七、ラヂオ體操
- 八、萬歲奉唱 九、閉會

此の日一天拭ふが如き快晴に恵まれ、菊花薫る奉祝日和に集ふもの老若男女七千、會場狹隘を告ぐるの壯觀を呈し終始興亞の意氣と奉祝の熱意に滿ち溢瀾たる元氣を以てラヂオ體操を行ひたり

#### 一、國民體力検査

本年四月八日法律第百五號ヲ以テ公付セラレタル國民體力法ニ基キ平市受檢該當年齡者六百十名ニ對シ左記ニ依リ體力検査ヲ執行セリ

ツベルクリン注射 身體検査、疾病異常  
 検診、運動機能検査

十一月二日	十一月四日	大正九年十一月二日ヨリ	出生ノ者
四日	六日	十年十一月二日ヨリ	全
六日	八日	十一年十一月二日ヨリ	全
		十二年十一月二日ヨリ	全

右検査ニ従事シタルモノ左ノ如シ

- |       |                        |
|-------|------------------------|
| 體力管理醫 | 検査補助者                  |
| 清水 廣政 | 篠山 廉 大和田祐之 菅波 國尚 瓜田 壽  |
| 村上 則裕 | 吉田 功 田中 重三 大越久五郎 関部 一己 |
| 木村 淳  | 高畑正次郎 井出 宣 松本 政夫 青木 健二 |
| 金成 忠義 | 鈴木 五郎 吉田 正二 西牧 清富 千葉 正 |
| 遠藤 澂香 | 横須賀俊一 薬谷伸六郎            |

○ 社 會

十月分救護狀況

種 別	世帯數	人 員	延人員	金 額
一般救護	三六	九六	二、九七六	三三六、九七
保護救護子	一〇	一〇	三四一	四六、四九
一時救助	四六	二四	七四四	八一、八七
計		一三五	四、〇六一	一九、三五
				四八四、六八

○ 産 業

米穀の國家管理に就て

政府は時局の重大性に鑑み米穀需給の不安なからしめるため今回農林省令を公布して十一月一日より生産者の生産米及地主の小作米の自家保有米（食料種子等）を控除したる以外は國家が管理米として國の統制の下に置くこととなつた。此の取扱については地方長官の指示により市町村農會に於て各保有米、管理米の數量等を定めて之を生産者及地主に通知することである。此の調査に當りては市は調査委員會を設けて其の適正を調べるのである。管理米は凡て縣の生産検査を受けて管理米の證印を押捺され地方長官の指定する農業者其他の者に寄託し又は自ら保管しなくてはならぬのである。

因に保有米とは各生産者及地主の家族數（同居人共）に一定の率を乘し一ヶ年の食料を定めその外必要なる種子量も加へて決定するのである。地主は自己所有の土地小作より受ける小作米の數量小作人氏名又二以上の町村に耕作する生産者はその町村別に耕地反別を市農會に届出で保有米の控除を受けることを要する。

日用品ニ關スル調査月報

（小賣相場）  
 昭和十五年十月末調

品名	單位	價格	品名	單位	價格
白米一等	一キロ	三一〇	木炭(箱割)	一貫目	四九五
同二等	"	三〇五	黑炭(二等)	"	一八五
同三等	"	三〇〇	砂糖(白)	百匁	一六八
平麥	"	二五〇	同(赤)	"	一六八
味噌(並)	一貫目	一〇〇	同(黑)	百匁	一八
醬油(〃)	一升	五〇〇	豚肉(上)	〃	七五〇
清酒(〃)	"	二〇〇	同(並)	〃	六五〇
木炭(樽丸)	"	一〇〇	牛肉(上)	〃	一〇〇〇
黑炭(二等)	一貫目	五〇〇	同(並)	〃	六〇〇

### ○戶籍

#### 十月中戶籍寄留件數

出生	死亡	結婚	離婚	其他
六四	二九	三三	二	四七
三二	〇	一	二	二
計	九六	三九	三四	四九

  

本籍	非本籍	計
二九	三三	六二
一三	〇	一三
計	九六	九六

  

謄抄本	閱覽	證明	計
二九	四	三二	六五
一	〇	一	二
計	四	三三	三七

### ○衛生

#### 十月中埋火葬

合計	本市住民	他町村民
一七五	一〇〇	七五
四五	三〇	一五
二二〇	一三〇	九〇
計	一七五	九五

### 傳染病患者

病名	越人員	本月發生	計
病チフス	二	六	八
ヂフテリア	四	七	一一
赤痢	四	七	一一
疫痢	四	七	一一

  

入院	全治	死亡	現存
四	五	三	一
計	一〇	三	四

猩紅熱  
計  
一〇一  
三二四  
三三四  
三三四  
一五三  
三二一  
一四一

○ 委員會

十月十六日 土木委員會  
十月二十九日 青年學校學務委員會  
十一月四日 大瀧發電所調查委員會

昭和十五年十一月十五日

發行所 平市役所

發行人 青沼峰太郎

印刷者 川崎文治

瀨島縣平市長橋町三五番地

印刷所 常磐每日印刷株式會社

電話 六三〇番

